

2015年1月5日

2015年 年頭所感

旭化成株式会社
代表取締役社長
浅野 敏雄

新年あけましておめでとうございます。

2014年の世界経済は、新興国での経済成長の鈍化や地政学的リスクによる影響が懸念される状況が続きましたが、アメリカやヨーロッパでは概ね緩やかに景気回復が進みました。一方、日本経済は、消費増税の影響もありましたが、円安や株高の進行と年後半の原油安の影響もあり、企業業績は改善しました。

2015年は、世界経済では、依然としてアメリカが経済成長を維持し、ヨーロッパでも引き続き回復傾向が続くと考えています。また、中国をはじめとした新興国も足踏み状態にありますが、長い目で見れば成長路線であることには変わりなく、日本経済も緩やかに景気回復が進むものと思われれます。

そのなかで当社グループは、2014年度上期は好調に推移し、通期での過去最高の業績達成に向けてあと一息のところまでできました。中期経営計画「For Tomorrow 2015」は今年が最終年です。これまでに投資してきた成果を確実に収益に結び付け、皆で必ず計画を達成しましょう。同時に次期中期経営計画に関する議論も進めていきます。良いときだからこそ、しっかりと知恵を絞って10年、20年後の旭化成の姿を考え、ギアチェンジを図っていきたくと考えています。

年頭にあたり従業員の皆さんにお願いがあります。現在、当社グループの従業員は約3万人ですが、一人ひとりが“昨日まで世界になかったもの”をつくり、イノベーションを通して世界に貢献するという意識で行動していただきたいと思います。イノベーションは研究・営業・製造・スタッフ職等全員で起こすものです。ぜひ全員参加で取り組んでください。今年も一緒に明るい年にしていきましょう。

以上